

## 【「2022学生企画プロジェクト」成果報告】

企 画：神大生プロアスリートマネジメント

団 体 名：石濱ゼミ

メンバー：山浦 彩実・渡邊 瑠加・宮城 光

### 1. 企画背景

神奈川大学において、個人競技で活躍する学生プロアスリートは大会で好成績を残したとしても競技成績が掲載されにくい、スポットライトが当てられにくいという現状があることを知り、神奈川大学に在学するプロアスリートを同じ大学生である私たちがマネジメントをしてみようと考えました。そこからどのような効果や影響が生まれるのか、プロアスリートの資料作成、宣伝活動、イベントの企画・実施等を通じて、実際に選手とコミュニケーションを取りながら活動・検証を行いました。これらの活動は、「プロアスリート自身や競技の知名度向上」「マネジメント活動を通じた知識と経験の獲得」を目的としています。学生プロアスリートにスポットライトを当てる機会を増やすことができるよう、神奈川大学と学生プロアスリート、その他大勢の学生である私たちを含め、どの立場からも良い影響を与え合えるような相互協力を生み出したいと思い、神大生プロアスリートマネジメント活動をスタートさせました。

### 2. 企画概要

現状の問題点を見直し、大学生であることを軸において、以下の活動・企画を行いました。

#### ①神大生プロアスリートのプロフィールシート作成

選手と情報を共有し、選手一人ひとりのプロフィールシートを作成しました。内容として、生年月日・身長体重・出身地・所属クラブ・競技成績等を記載、マネジメントを行う全選手に同じ内容で作成し、写真やデザインにもこだわりを持ち、それぞれの選手の魅力が紙面から伝わるよう心掛けました。



図1



図2

## ②デジタルサイネージの作成・掲示

宣伝活動として、みなとみらいキャンパス5階アリーナ前の通路にデジタルサイネージを作成・掲示しました。主に選手の氏名、所属学部、学年、競技成績を掲載し、多くの方の目に留まるよう設置しました。リアルタイムでの選手の活動状況を掲示すべく、競技成績を頻繁に更新しています。



図3



図4



図5

③みなとみらい祭にて「未来を動かす！神大生アスリートトークショー」のイベント開催

・1日目

日 程：2022年11月5日（土）

時 間：14：00～15：00

場 所：みなとみらいキャンパス  
1階 ナレッジコア

出演者：長谷川円香選手（2年）

ドラコン

可兒 栄樹選手（3年）

ボクシング



図6

・2日目

日 程：2022年11月6日（日）

時 間：15：00～16：00

場 所：みなとみらいキャンパス  
1階 ナレッジコア

出演者：長谷川円香選手（2年）

ドラコン

可兒 栄樹選手（3年）

ボクシング



図7



図8

・デジタルサイネージで選手のインタビュー動画を常時公開

出演者：平田 拓海選手（4年）

サーフィン

橋本 陸汰選手（1年）

ウィンドサーフィン



図9

④学内広報誌に対し、活動成績や競技等、選手自身の掲載に関する相談・依頼  
宣伝活動の一つとして、広報課が年に4回発行する無料の学内誌「神大スタイル」に神大生プロアスリートに関する取材を依頼しました。また、広報課に私たちのマネジメント活動を紹介・説明したうえで、神大生プロアスリートにフォーカスを当てた記事を作成できないかどうか、情報共有の場としてどのようなものがあるのか、企画の提案・相談をさせていただきました。広報課に連絡を取る際は、電話やメールなど様々な手段を活用しました。

### 3. 活動の成果

はじめに、企画と広報の効果についてまとめました。

#### ①MM祭成果

開催したトークショーでは、2日間でのべ50名の方が参加しました。

トークショーは約3ヶ月前から企画を始め、非常勤講師で株式会社プラミンの岩瀬先生に助言をいただきながら企画しました。実際に企画を通していくつかの企業に選手の紹介を行えたことも成果のひとつだと考えます。

企画の宣伝はゼミ生や、出演するアスリートがSNSで宣伝を行いました。

一般の方の参加のあるMM祭で企画を行ったことで、大学外に向けて選手の宣伝ができました。トークショー後のアンケートでは「プロの選手をしながら学業を一生懸命取り組んでいる姿勢が素晴らしいと感じた」「名前を知ったので応援していきたい」という声を頂きました。また「同じ神大生として、私も頑張ろうと刺激をもらえました」と学生からの声も頂きました。

また、インタビュー動画はデジタルサイネージで常時流していましたが、宣伝の効果があったのかという調査はできませんでした。そしてトークショーやデジタルサイネージに立ち止まってもらうための工夫が足りていなかったという点は今後の課題であると考えます。

トークショーの企画を通して、選手にスポットライトを当てることや知名度の向上につながったと考えます。それだけではなく私たち自身が多くの経験を得ることができました。

## ②広報活動の成果

### • デジタルサイネージ効果調査

〈方法〉 対面調査 (Google form) 307人

〈対象〉 アリーナで授業を受けている学生

〈質問〉 デジタルサイネージについて

- あることを知っているか
- 立ち止まったことがあるか
- 印象に残っている選手は

デジタルサイネージがあることを知  
っていましたか

307 件の回答

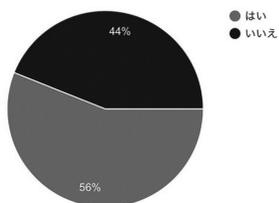


図 10

デジタルサイネージに立ち止まった  
ことがありますか

307 件の回答

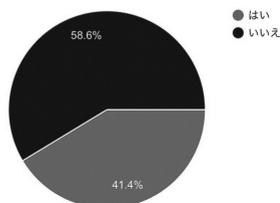


図 11

印象に残っているスライドはありますか(複数回答可)

307 件の回答

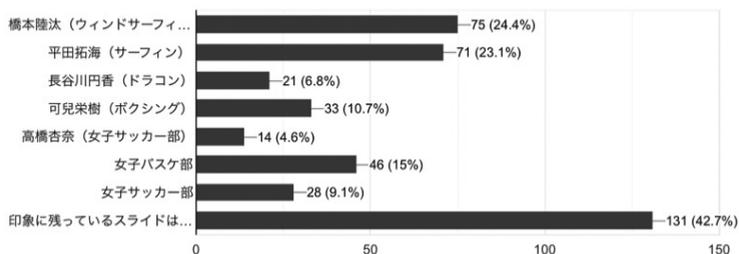


図 12

上記の結果から通路を通る半数以上の学生が、デジタルサイネージの存在を知っていると回答しました。このことより通行人の視界に入れることに成功したと考えます。また立ち止まった人は視界に入れた人の10%減であることから視界に入れた人の半数以上が立ち止まったと考えます。立ち止まっ

てスライドを確認し、選手の存在を知ってくれたという点で、学生に向けて大きな宣伝効果があったと考えます。

- 取材依頼の成果

広報課への取材依頼の成果としては2つあります。

一つ目は神大スタイル12月号に橋本陸汰選手（ウィンドサーフィン）の掲載をしていただくことが決まりました。1月に撮影を行う予定です。

二つ目はMM祭でのトークショーに出演した選手のインタビュー記事を神大公式Instagramに掲載していただきました。インタビューに合わせてトークショーを行ったことと石濱ゼミの活動を宣伝していただきました。

広報課の協力もあり学生へのスポットライトをより当てることができました。形として残せることは、私たちにとって大きな成果であると考えます。



図13



図14

#### 4. 今後の展開

スポーツマネジメントを行い始めてまだ半年ですが、トークショーの開催、Instagramの掲載決定などで、多くの方に神奈川大学に在籍しているプロアスリートの存在を認識してもらうことができましたと思います。

今後の展開としては、まずは1月に行われるウィンドサーフィン橋本陸汰さんの神大スタイルの撮影の手伝いをしていき、みなとみらいキャンパス5

階アリーナ前に設置されているデジタルサイネージを随時更新していきます。こうしたスポーツマネジメントは次の世代に引き継ぎ、今回把握することができなかった神奈川大学に在籍しているプロアスリートの方や、新たに神奈川大学に入学してくるプロアスリートのマネジメントに加えて、神奈川大学内で学生プロアスリートの名が浸透していった際には、神奈川大学外に視野を広げ活動していきたいと考えています。

## 5. 謝辞

最後に本プロジェクト活動を進めるに当たり、「学生企画プロジェクト」を採択していただいた神奈川大学国際経営学会に厚く御礼申し上げます。